

# 議員クラブ視察報告書

自治体間連携の絆を深める ―鹿児島県東串良町を訪ねて― 坂田優美

## 1. 視察目的

自治体間連携協定締結先である鹿児島県東串良町を訪問し、同町の基幹産業や歴史資源の活用状況を調査するとともに、特に本市が抱える少子高齢化・人口流出への対策として、同町が令和7年10月に開設した「室内遊具施設」の先進事例を調査し、本市の市政運営および施策提案の参考とする。

2. 視察日時 2025年11月18日

3. 視察場所 鹿児島県東串良町

- ・農産物集荷場
- ・唐仁古墳群
- ・地場産品販売所
- ・志布志国家石油備蓄基地
- ・農村環境改善センター



## 4. 視察内容と所見

### ・ 農業振興と気候変動への対応(農産物集荷場)

特産品ピーマンの集荷場を視察。夏季の猛暑による落花や樹勢の衰えが深刻であり、最盛期にもかかわらず集荷量は例年の1/10に激減している現状を確認した。一方で、一時的な品不足から市場価格が高騰しており、収穫量の減少分を単価の上昇が補う形となっているとの事。そのため、農家の実質的な所得被害は現時点では一定程度に抑制されているという側面も確認でき、気候変動下における産地維持と市場原理の相関について知見を得た。

- **歴史的資源の保存と活用(唐仁古墳群)**

町内に 132 基存在する古墳群、特に九州第 3 位の規模を誇る「唐仁古墳」では、大塚神社の建立経緯など、歴史的背景を活かした町職員による専門的な解説行われており、文化財を軸とした観光・教育振興のあり方を学んだ。

- **産業(地場産品販売所)(志布志国家石油備蓄基地)**

物産館では、設置されている「江津市コーナー」が非常に好評であり、商品が売り切れとなるほどの盛況ぶりを確認した。これは両自治体の連携が実務レベルで成果を上げている証といえる。

「国家石油備蓄基地」では、上陸許可を得て施設内を周回し、重要拠点としての管理体制を調査した。

- **子育て支援と定住促進策(農村環境改善センター)既存の施設を有効活用**

**施設概要:**「農村環境改善センター」内に新設された、全天候型室内遊具施設を視察した。黄色と緑を基調とした明るい色彩で、動物や恐竜の形をした遊具(球体型ブランコ、滑り台、クライミングウォール、トランポリン等)を備えた新たな遊び場は、前回の訪問時には無かったものだった。まだ開設したばかりで、主に保育園が利用しており、地域の子どもたちに高く支持されているとの実態を確認した。

**本市への適用性:**本市においても、天候や季節(酷暑・降雪等)に左右されず、乳幼児から小学生までが安心して遊べる「遊びの場」の不足が課題となっている。東串良町のように既存施設を有効活用した「全天候型・多世代交流型」施設の設置は、保護者の孤立化防止や子育て世代の転入・定住を促す強力なアピールポイントになり得ると確信した。

**期待される効果:**多様な遊具による児童の身体能力向上に加え、高齢者の見守り協力による多世代交流の拠点化、周辺店舗との連携による地域活性化など、波及効果は極めて大きく、本市の子育て支援策を検討する上でも非常に有益な事例と言える。

## 5. まとめ

今回の視察を通じ、気候変動が地場産業の供給体制に与える影響の深刻さを再認識するとともに、市場原理による価格形成が農家所得の下支えとなっている実態や自治体間連携による物産交流の有効性を確認した。また、東串良町のスピード感ある子育て環境整備を目の当たりにし、本市が「子育てしやすいまち」として選ばれるためには、既存の公園(屋外中心)の弱点を補完する室内遊具施設の設置が急務であると感じた。特に、既存施設の転用によるコスト抑制や、多世代交流の拠点化といった東串良町のモデルは、本市においても十分に導入可能であると考えられる。本市においても、産地維持のための支援と、歴史・公共施設の有効活用という両面から、連携自治体との知見共有を図り、柔軟な施策展開に繋げていきたいところ。本視察で得た具体的な成功事例を基に、今後の一般質問等を通じて、子育て世帯への支援と定住促進に資する具体的な政策提言を行っていく所存である。